

帰村時期について

復興計画(第4版)に帰村時期を平成28年3月頃としていましたが、あくまでも目安として示していました。

今後の除染進捗状況やインフラの整備状況等によりですが、今後議会・行政区長会等と十分協議させていただき、今年の上半年あたり具体的な帰村の時期を決めることができればと考えています。

広域消防飯館分署建替え

経年劣化に加え東日本大震災により壁等に亀裂が入る等したことから、平成27年度において国へ要望し、消防防災施設の充実に図るために建替えを計画しています。

広聴・広報・情報提供

意向調査、行政区懇談会を行い、村民の皆さんの意向の把握に努めたいと考えています。

また、村民各層や各種団体、行政区等を単位とした懇談会を開催し、意見の集約と施策への反映に努めてまいります。

行政区及び自治組織活動支援

行政区ごとのコミュニティ維持と避難先での村民同士の連携維持のため、制度の見直しを図りながら、引き続き行政区及び自治組織に対し、助成事業を実施していきます。

また、村民を対象として昨年一昨年と実施した「いいたて村民ふれあい号」についても、参加者から大変好評でしたので、内容の充実を図りながら平成27年度も継続していきます。



生活支援対策

仮設住宅の住環境や、公的宿舍等の施設設備について適切な保守管理と、共益費の補助や駐車場借上げ、交流施設の適切な管理運営を行います。いやしの宿は、村民の交流と健康管理・健康増進の場に位置づけ、新年度も利用しやすい環境を目指します。また、宿泊体験館きこりの改修を進めながら、いやしの宿の機能を移行していきます。

企業や事業者の支援

避難先で18事業所が営業または事業を再開し、平成24年7月の区域見直し以降、39事業所が村に通って事業を再開しています。

観光交流事業では他市町村に出向き、村民手づくりの特産品などを販売するなどし企業や事業者の支援に取り組みます。緊急雇用対策としては、全村見守り隊など16事業に268人を雇用し、収入の確保と生活の安定を図り、避難先の住民サービスの充実を図るよう配慮していきます。

村税

原子力災害に伴う平成27年度の市町村税の減免措置等について、平成26年度と同様の減免措置等が継続されるものと想定されるので、減免措置を講じたいと考えています。

滞納村税等の収納率向上については、長年の課題ですが、平成27年度においても、納付推進を図りながら精力的に滞納解消に努めます。

村内防犯・ごみ処理対策

平成27年度は、防犯カメラを村内各所に設置し防犯体制・犯罪抑止の強化に努めます。

平成26年度は、ごみ処理基本計画等の策定を行い、帰村後のごみ処理対策に支障をきたさないよう検討・準備を進めてきました。

その結果、平成29年度中の稼働を目指して、飯館クリアセンター内に村独自の焼却炉の整備を行っていきます。平成27年度においては、焼却炉建設に向けて測量・調査・業者選定・実施設計等を進めていきます。

子育て支援について

昨年の12月に開設したいいたて子育て支援センター「すくすく」を拠点として、巡回型の事業や、お子さんを一時預かりする事業の立ち上げを予定しており、育児サークルの結成等も支援していきます。

復興対策

昇口舗装工事の申し込みを受け付け中ですが、村全域で約600世帯の希望が見込まれますので、予算の確保に向けて国と協議中であり、財源確保の見通しがつき次第、工事の進捗をさらに加速していきます。

大谷地団地建替え工事は、第1期工事として2棟8戸を建設し、年内の完成を目指します。10月ごろから入居募集を行う予定です。

村道機能回復事業では、二枚橋地区の見石線(みるいしせん)146メートルのオーバーレイ工事を行います。



学校教育・生涯学習

平成27年度は仮設学校施設の充実に加え、村内の学校施設についても清掃や修繕を行い、帰村に向けた準備を進めます。

さらに、昨年度立ち上げた学校運営協議会等を活用して、学校と家庭、地域の連携による新しい学校運営を進めるとともに、土曜授業を組み入れることにより、学力の向上・キャリア教育・ふるさと学習等子どもたちの多様な学びを支援していきます。

子どもたちの体験活動

小学6年生を対象とした「沖縄までの旅」、中学生を対象とした「未来への翼」事業を引き続き実施します。

他にも、全国からの支援事業が予定されていますので、子ども達には豊かな経験を積ませる絶好の機会とらえ、村としても積極的に取り組んでいきたいと考えています。



地域医療の再開・確保

具体的な地域医療再開に向けて、村と秀公会、有識者などを交えて、復興プランとの整合性ある、より良い「地域医療の再開・確保」について検討を進めていきます。



公民館

現在、新しい公民館の設計業務が終了し、平成27年度中の完成を見込んでいます。

震災後、村内につくる初めての公共施設となりますので、村復興のシンボルとなるような施設にしたいと考えています。

